

2022年度 環境経営レポート

活動対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日



株式会社 フィスコ

2023年6月22日 作成

1 事業所の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

株式会社フィスコ

代表取締役 関根 寛

(2) 所在地

〒142-0043 東京都品川区二葉3丁目13番8号

(3) 事業内容

環境コンサルタント

(4) 事業規模

- ・ 設立年月日 昭和56年6月11日
- ・ 資本金 2,000万円
- ・ 従業員数 8名
- ・ 建物延面積 99.81m²
- ・ 売上高 90百万円

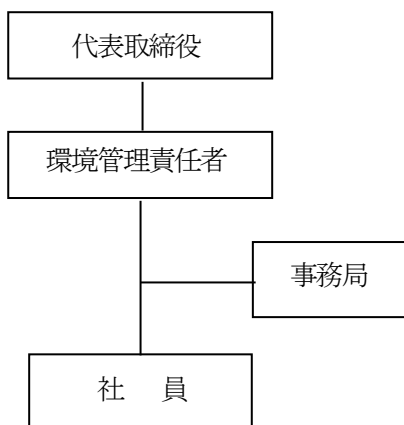
(5) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

1) 環境管理者氏名 取締役 深町 孝子

2) 担当者連絡先 電話 03-3786-0851 / FAX 03-3786-0852

e-mail fukamachi@fisco-co.jp

(6) 実施体制



(7) 主要な役割、責任・権限

役割	責任・権限
社長	<ul style="list-style-type: none">・ 環境経営方針を定め、環境管理責任者を任命する。・ 環境経営システムの実施・運用のための経営資源を準備する。・ 経営における課題とチャンスを確認にする。・ 環境経営システム全体の評価と見直しを実施する。
環境管理責任者 (事務局兼務)	<ul style="list-style-type: none">・ 環境経営システムを運用・維持管理する。・ 環境経営システムに必要な計画を立案し、進捗状況と取組状況を確認・評価する。・ 代表者へ環境経営システムの実績の報告。環境活動レポートの作成。
部門責任者/社員	<ul style="list-style-type: none">・ 環境経営計画に基づき、環境保全活動に努める。

2 対象範囲（認証・登録範囲）

全組織、全活動を対象範囲とする。

組織：本社

活動：環境コンサルタント、土木・水系コンサルタント

3 環境経営方針

<基本理念>

株式会社フィスコは、農林水産業や地域産業のミッションとして、社会の基盤を作っている農林水産業に係る世界の有用な生産技術・環境保全技術の普及のために働く中で、環境への負荷低減に積極的に取り組みます。

当社は、環境経営システムを構築し、環境経営目標・環境経営計画を定め継続的な改善に努めます。

<行動方針>

環境経営方針は、経営における課題とチャンスを踏まえるとともに、次を行動指針として取り組みます。

1. 当社の事業活動に関わる環境関連法規制及びその他の環境関連要求事項を遵守します。
2. 電力および化石燃料の使用に伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 廃棄物の発生抑制、分別、及びリサイクルに努めます。
4. 節水活動に努めます。
5. 化学物質の適正管理に努めます。
6. 自然林を保護し紙資源を保全するために、調査報告書のペーパーレス化に努めます。
7. この環境方針を当社の全従業員に周知します。

制定 2014年4月1日

改定 2018年9月1日

株式会社 フィスコ

關根 幹男

4. 環境経営目標

区分	環境経営目標		単位	基準値	目標値	目標値	目標値
				2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
CO ₂	電気使用量の削減	目標値	kWh	17,571	17,395 -1%	17,220 -2%	17,044 -3%
		CO ₂	係数	0.445	0.445	0.445	0.445
		換算値	Kg-CO ₂	7,925	7,736	7,662	7,585
	ガソリン資料量の削減	目標値	リットル	1,450	1,436	1,421	1,407
		CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	3,364	3,336	3,298	3,264
	ガソリン資料量の削減(燃費)		Km/リットル	13.1	13.2 1%	13.4 2%	13.5 3%
廃棄物	一般廃棄物排出量の削減		Kg	139	138 -1%	136 -2%	135 -3%
水	水使用量の削減		定性目標	節水管理	節水管理	節水管理	節水管理
化学物質	化学物質の適正管理		定性目標	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
サービス	調査報告書のペーパーレス化		定性目標	紙媒体での報告	電子媒体の提案	電子媒体の提案	電子媒体の提案

注1 購入電力の二酸化炭素排出係数は、東京エナジーの令和3年調整後排出係数(0.445)を使用した。

注2 ガソリン使用量削減は燃費の原単位目標とする。

注3 水使用量と化学物質使用量は少量のため定性目標とする。

注3 調査報告書のペーパーレス化は調査委託元の承認を必要とし、自社で数値目標が設定できないため定性目標とする。

5. 環境経営計画

環境経営目標	取組内容
電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンの取り換え(フロンR-410A) ・不必要なエアコンの停止、適正な設定温度(夏季:28℃ 冬季:20℃) ・不使用機器の待機電力カット ・照明器具、エアコンフィルターのこまめな清掃
ガソリン使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブの実施 ・走行ルートの適正化 ・走行距離の記録・管理 ・可能な限り公共交通機関を利用する。
一般廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・コピー裏紙の再利用 ・分別の徹底 ・3Rの徹底
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・節水の徹底 ・漏水の点検
化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ・SDSを取得し、危険有害性の安全対策実施 ・保管及び使用上の注意事項の遵守 ・購入量、使用量、在庫量の管理
調査報告書のペーパーレス化	<p>調査の委託元に以下を説明し電子媒体での報告書の提出を提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙資源の消費量削減に貢献できる。 ・紙報告書の作成に係わる工数削減により、報告の早期化が可能となる。 ・電子化により報告書保管の簡易化が期待できる

6. 環境経営目標の実績

6-1 環境経営目標の実績

環境経営目標	目標値(2022年度)	2022年度実績	達成状況
電気使用量の削減	17,395 kWh	19,083 kWh	未達成
ガソリン使用量の削減	1436 リットル	1,218 リットル	達成
ガソリン使用量の削減(燃費)	13.2 km/リットル	10.7 km/リットル	未達成
一般廃棄物の削減	138 kg	137.5kg	達成
水使用量の削減	節水活動	節水活動実施	達成
化学物質の適正管理	適正管理	適正管理実施	達成
調査報告書のペーパーレス化	電子媒体の提案実施 (14件の提案実施)	電子媒体の提案実施 (15件の提案実施)	-

6-2 対象調査件名

1	奥多摩湖における稚魚の放流委託契約
2	ダイオキシン類生物汚染状況調査等の試料採取委託
3	新宿歩行者専用道第2号線地下水位調査委託(その16)
4	水環境調査委託(4南東-南多摩尾根幹線)
5	野川生物調査委託(その15)
6	羽村大橋環境調査委託(その23)
7	八雲給水所排水区域等における給水栓水質調査委託
8	葛西臨海公園上の池生物調査委託
9	野川自然再生に伴う維持管理調査委託
10	河川管理施設点検業務委託(4西の2)
11	河川管理施設点検業務委託(4四建の1)
12	河川管理施設点検業務委託(北南建)
13	河川維持管理計画(案)策定検討委託
14	調布取水堰遡上測定調査委託
15	河川管理施設等点検業務委託(4治水)
16	河川管理施設維持管理計画策定業務委託(第三建)
17	河川管理施設等点検業務委託(第二健)
18	群馬県水産試験場 耳石分析

6-3 二酸化炭素総排出量(実績)

区分	2022年度	
	使用量	CO ₂
電力(kWh)	19,083	8,490
ガソリンリットル	1,218	2,827
総排出量 kg-CO ₂	/	
都市ガス m ³	7	15.12

7. 環境経営計画の取組結果とその評価／次年度の環境経営計画

環境経営目標	環境経営計画の取組状況の評価	次年度の計画
電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 電灯をLEDに変更、エアコン（現在、フロンR-410A）を1台の取り換えを実施した。もう1台の東芝のエアコンの取り換えを計画する。 不要な照明、使用していないPCなど事務用機器の電源のOFFを徹底する。 	計画を継続
ガソリン使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 走行距離を記録することで常に燃費を意識し、エコドライブに努めた。 ベースキャンプを設け、そこまでは電車移動することにより、ガソリン使用量を削減した。 	計画を継続
一般廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> 3Rの中で特に廃棄物の発生を抑制するReduceの取組みが不十分であった。 古い現場資材を廃棄したことにより大幅に増加した。 	計画を継続
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 節水を促すステッカーや張り紙を提示することで、日常生活用水の節水は概ね浸透している。 	計画を継続
化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> 化学薬品のうちホルマリンについては削減のため、一部をエタノールへの切り替えを実施した。 定期的な残量(使用量)のチェックをし、適正管理を徹底する。 	計画を継続
調査報告書のペーパーレス化	<ul style="list-style-type: none"> 受注した調査案件の全てについて調査報告書の電子媒体化を提案した。 調査仕様書で紙媒体の調査報告書が求められているためペーパーレスは実現していないが、自然林を保護し紙資源の消費量削減に貢献できることを継続して説明する。 	計画を継続

8. 環境関連法規の違反、訴訟等の有無

法規名称	主要な法規制事項	順守評価
毒物及び劇物取扱法	<ul style="list-style-type: none"> 盗難又は紛失の措置を行い、在庫量の定期点検、使用量の把握を行う。 容器及び被包に「医薬用外」、毒物は赤地に白で「毒物」、劇物は白地に赤で「劇物」の文字を表示する。 	全て遵守
廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> マニフェストの発行及び回収管理 廃棄物処理事業者との契約の締結 	全て遵守
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル料金の支払い 引き取り事業者への引き渡し 	廃棄は無い
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> 簡易点検の実施 簡易点検記録の保存 	全て遵守
東京都火災予防条例	<ul style="list-style-type: none"> 危険物を貯蔵し、又は取り扱う場所においては、火気を使用しないこと。 危険物を収納した容器を貯蔵する場合は、地震動等による災害の発生を防止するための処置を行うこと。 	全て遵守

環境関連法規の順守状況の点検を行ったところ、違反のないことを確認した。

関係機関より過去3年間、違反・指摘などはない。また、近隣など外部からの苦情もない。

9. 代表者による全体の評価と見直し

- 年により業務の案件数と業務内容、現場への距離による違いはあるが、環境への取組の必要なことを、地球温暖化に伴う気候変動と異常気象を目にして痛感した。繰り返し教育訓練を行い、全従業員の意識を改善して、目標を達成していく。
- 古い現場資材等の整理に伴い、一般廃棄物の排出量が増加しているが、引き続き資機材の整理・整頓を図り、業務効率を上げることでエネルギー消費を減らす。

- 引き続き、空調設備等の定期的なメンテナンスを行い、エネルギーロスを削減する。
- 業務の効率化を更に推進し、時間外勤務等によるエネルギー消費を削減する。
- 化学薬品のうちホルマリンについては、削減のため一部をエタノールへの切り替えを実施した。
引き続き、定期的な残量(使用量)のチェックをし、管理を徹底する。
- 環境関連法規等の改正動向に注意を払い、取りまとめの漏れが無いようにする。
- マネジメントシステムを運用・管理し継続的な環境改善が、循環型社会の構築の一翼を担うことを改めて確認した。